

病理専門医制度運営委員会だより（第42号）

1. 2025年度病理専門医試験について：

2025年度の専門医試験は、8月23日、24日の土日に東邦大学医学部で実施致します。PCを用いたヴァーチャルスライドと写真（PDF配布）で試験を行います。PCはレンタルで用意しますので、持ち込みは不要です。ビューワーは浜松ホトニクス NDP.view2 画像閲覧ソフトウェアを使用します。受験される皆様にはヴァーチャルスライドに事前に慣れておいてから試験に臨みますようお願いいたします。ソフトウェアは浜松ホトニクスのホームページからダウンロード可能です。

(<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/product/life-science-and-medical-systems/digital-slide-scanner/U12388-01.html>)。

また、サンプルデジタル病理画像（WSI）を会員専用ページに掲載しておりますのでこちらも練習のために活用いただければ幸いです。

(<https://e-learning.pathology.or.jp/course/view.php?id=63>)

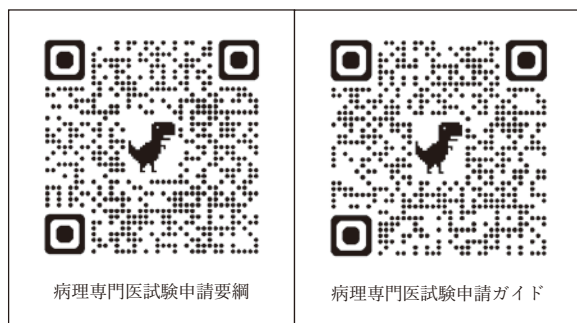
2. 2025年度の病理専門医受験資格審査について：

既に申請要綱は公開され、申請を受け付けています。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/semi-shiken/2025.html>

例年同様 PDF ファイルをアップロードする形式です。受験申請に当たり「申請要綱」をよく読み書類を準備し、電子申請の操作方法是「病理専門医試験申請ガイド」を読み、早めの対応をお願いします。申請は5月1日（木）13時までです。

以下特に、例年問題となる部分を説明します。



○人体病理学の業績3編：

- ・あくまでも「人体病理（病理診断学）」の業績です。
- ・3編中1編は論文でなければなりません。
- ・3編のうちどれか1編は受験者本人が筆頭でなければなりません。
- ・論文が筆頭である必要はありません。
- ・学会発表とは原則病理学会総会での発表を指し、筆頭・共著共に業績と認められます。病理学会の支部会あるいは病理学会以外の学会の総会（病理学会の更新単位付与が認め

られているもの）での発表は申請者本人が筆頭であるものに限りです。

- ・掲載雑誌や学会発表が受験資格となるか判断が難しい場合は、病理学会事務局にご相談ください。

○死体解剖資格（病理）：死体解剖資格審査は時間がかかります。今年度申請予定者で、解剖資格を申請したにも関わらずまだ認定証が届いていない場合は、状況を必要機関に問い合わせてください。受験申請締切日の段階で未認定者についても、5月31日までに審査結果が到着する見込みであれば、未認定の状態での申請が認められます。

○病理解剖報告書：24例の剖検報告書の写しが必要です。病理専門医受験のための解剖症例は、病理専門研修開始後の症例だけが対象となります。主診断医が診断者名の筆頭にあることが望ましいのですが、施設（システム）により執刀医や診断医が不明瞭な病理解剖報告書があります。診断書上の記載順位にかかわらず、申請者が筆頭で執刀したことを推薦者に確認してもらう必要があります。推薦者はこの点を確認し、推薦書にチェックしてください。

○書類をアップロードする時には、剖検や迅速のリストに書かれた順番と診断書の順番が一致するようにしてください。

○JMSB Online System+（日本専門医機構研修システム）での研修修了申請について（2018年度以降の研修開始者のみ）：対象者は受験申請前までに、「研修修了申請」を行いプログラム責任者に「研修修了申請」の承認を受けてください。研修は原則として基幹施設と連携施設で行う必要がありますが、週1回程度他施設で研修を行うことで研修修了できる場合があります。この場合システムの備考欄に週1回研修の施設名と研修期間を記載していただく必要があります。1つの研修施設の登録だけでは日本専門医機構で研修の承認がされず、試験合格後も認定証が発行されません。登録方法の詳細は以下よりご確認ください。（https://www.pathology.or.jp/senmoni/jmsb_system.pdf）

3. 2025年度の病理専門医資格更新について：

専門医更新の申請は電子申請と郵送申請の選択制です。2024年度の大多数の電子申請者からは、電子申請にして楽になったとの声を頂いていますが、電子申請の際には受講証などの書類を pdf 化する必要があります。

2025年度の更新対象者には8月末～9月上旬頃に病理学会会員システムのメールアドレスへ、電子と郵送のいずれかを選択するメールが届きます。選択後に、それぞれの手続きが案内されますが、メールでの回答がない場合やメールが不達の場合は自動的に郵送申請になります。更新手続きの詳細は（<https://pathology.or.jp/senmoni/koushinkijun.html>）をご確認ください。

更新に関して注意すべき重要な事項を記載します。

- ・2020年11月以降、2025年10月までのものしか認められません。
- ・共通講習の医療安全・医療倫理・感染対策はそれぞれ1単位必修です。
- ・臨床細胞学会の「細胞診専門医研修指定講座受講証明書」は共通講習の単位にはなりません。明確に「共通講習」と記載されコード（登録番号）が記載された受講証明書が必要です。
- ・1学会で取得できる領域講習の単位には上限があります(病理学会総会（春）：12単位、病理学会総会（秋）：8単位、臨床細胞学会：6単位)。
- ・2015年度以降の研修開始者は50単位分の他に以下提出が必要です。

2020年9月26日認定者：病理解剖10体のリスト・病理解剖報告書（2020年9月26日以降の症例）。

2021年4月1日認定者：病理解剖10体のリスト・病理解剖報告書（2021年4月1日以降の症例で受験申請に使用していないもの）。剖検講習会（病理学会春総会オンデマンド）の受講証（課題提出不要・領域講習の受講証可）。

※病理解剖10体は自ら主執刀した症例以外にも、副執刀や指導で関わった症例が対象です。

4. 希少がん病理診断画像問題・解説（e-ラーニング）について：

職場あるいは自宅でも学習可能で、専門医更新のための領域講習の単位になります。是非、日常診療および希少がんの病理診断力の向上にお役立て下さい。

- ・「希少がん病理診断画像問題・解説（病理学会希少がんHP）」を受講の際に病理領域講習の単位を付与します。

- ・現在（2025年3月時点）は骨軟部腫瘍（31コース）、脳腫瘍（20コース）、小児腫瘍（29コース）、頭頸部腫瘍（28コース）、皮膚腫瘍（28コース）、リンパ腫（31コース）、希少サブタイプとして婦人科と乳腺が各4コースずつの全175コース（1コース：10問）あります。
- ・8割（8問）以上の得点で合格となり、1コースにつき領域講習1単位が認定されます。ただし、専門医更新の病理領域講習に使えるのは最大15単位までです。
- ・8問以上をクリアするまで何度でも繰り返し受講することができます。
- ・取得単位は病理学会会員システムの「単位」欄に自動的に反映され、更新の際に単位を印刷や添付するなどの手続きは不要です。
- ・希少がん診断のための病理医育成事業ホームページ「コースカテゴリ」から会員システムのID、PWを用いてログインし、履修することができます。

<https://rarecancer.pathology.or.jp/>

- ・希少がん診断のための病理医育成事業「希少がん病理診断講習会」が年間4回開催されています。いずれも事前予約のWEB開催です。参加者には病理領域講習単位が付与されるほか、病理専門医資格更新の病理領域講習として認定されております。

5. 専門医研修制度について：

専攻医の採用が決定しましたら、プログラム制・カリキュラム制を問わず、専攻医自身が確実に専門医機構へ専攻医登録をしてください。登録時期は研修開始年度前年の秋（11月頃）です。登録が遅れた場合の猶予はなく、1年単位で専攻の修了が遅れることになり、かつ未登録時点での経験症例はカウント

専門医共通講習 受講証明書	細胞診専門医研修指定講座受講証明書
【受講者】	会員番号：
専門医番号：	氏 名：
氏 名：	所属先名：
所 属：	
【受講講習会】	第59回日本臨床細胞学会秋期大会（Web開催）
講習会名：第62回日本臨床細胞学会秋期大会医療安全セミナー	感染対策セミナー
登録番号 24XX-231104-1-163-40	Web配信期間：2020年12月11日（金）8:00～12月27日（日）23:59
受講完了日：2023年11月18日	貴殿は上記「感染対策セミナー」を受講したことを証明します。 2020年12月27日
カテゴリ区分：医療安全 単位数：1単位	
貴殿は上記「医療安全講習会」を受講したことを証明します。	

されません。採用が決まった時点で直ちに専門医機構への登録も忘れずにお願いします。

6. 分子病理専門医認定制度について

- ・分子病理専門医認定者名簿を掲載しています。2025年4月1日認定者も追加されています。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/certified-pathologist.html>

- ・分子病理専門医（暫定）の資格認定は2025年3月31日をもって終了いたしました。

- ・2025年度第6回分子病理専門医試験は2025年12月14日（日）に、ビジョンセンター東京 京橋にて実施予定です。試験要綱は2025年4月1日に公示いたします。

対象者：病理専門医、口腔病理専門医

<https://pathology.or.jp/senmoni/bunshibyouri.html>

7. 専門医機構の動向について

○専門医試験受験年限・回数の制限について：これまで学会主導の専門医試験の受験回数に制限はありませんでしたが、2017年度以降の専門医機構での研修開始者は、今後は研修修了後5年以内（受験回数5回以内）が受験資格となります。育児や介護などやむを得ない事情がある場合は、1年単位での延長は可能です。

○2023年7月以降に専門医資格の認定・更新がされた方には、医師免許証と同様、戸籍名の後に括弧つきで旧姓の併記が可能になりました。詳しくはJMSB Online System+でご確認ください。 <https://sys.jmsb.or.jp/trainingProgram/html/index.html>

8. 今後の日程について：

- ・希少がん診断のための病理医育成事業では引き続き希少がん病理診断講習会を実施しております。すべて事前申込制で、定員以上の申し込みの場合は抽選となります。HP (<https://rarecancer.pathology.or.jp/>) でご確認ください。希少がん・病理診断講習会は、病理専門医資格更新の病理領域講習として認定されております。また専門医受験に必要な病理診断に関する講習会としても認められております。
- ・第21回日本病理学会カンファレンス：2025年7月25～26日（愛媛県松山市）
- ・第14回分子病理専門医講習会：
2025年8月9日（WEB開催）
- ・第19回診断病理サマーフェスト：
2025年9月6日～7日（東京、オンデマンド配信）
- ・第15回分子病理専門医講習会：
2025年9月21日（WEB開催）
- ・第71回秋期特別総会：2025年11月13～14日（名古屋）
- ・2025年度細胞診講習会：2026年1月末予定（WEB開催）
（文責：森井英一・大橋健一・粕雄一朗・中黒匡人）

＝ 体のケア、リカバリーの工夫 ＝＝＝＝＝＝
体のケア、リカバリーの工夫

市立釧路総合病院病理診断科 瀬川 恵子

長時間同じ姿勢で過ごしがちな病理医に向けて体のケアは身近な問題であり、すでに色々と実践している方もいるでしょう。今更な内容になってしまうかもしれませんが、体の不調に悩まれている方にはひとつ、ご参考にしていただけたら幸いです。

10代の頃から肩こりには悩まされていたが、病理医になってからさらに酷い。今までもみほぐし、整体、オイルマッサージ、タイ古式マッサージ、台湾式足ツボ、電磁波治療等あらゆるボディケアを試してきたが、なかなかいい施術に出会えなかった。そして釧路で働き始めて数か月、体のサイズに合わない椅子を使い続けたためなのか、もともと痛めやすかった首が激痛で動かせなくなった。私は体の左側を痛めやすく、この時には左に首を傾げることもできなければ左を向くこともできなかった。ここで初めてパーソナルストレッチを試してみた。それまでも自宅でヨガやストレッチはしていたが、トレーナーに負荷をかけながら関節を伸ばしてもらうことで、一人では伸ばせない部位も伸びる。月2回通って首を動かせるようになるのに2か月くらいはかかったが、その後も月1回程度の頻度で通い続け、とても調子が良い。といっても、標本が多い日が続くと首の痛みは軽く再発してしまうし、背中から腰の張りも出やすい。別のアプローチも必要である。

まずは職場の椅子である。自分の体の幅、尻から膝までの距離と座面の幅、奥行きのサイズを確認してそれまで使用していたものよりも小さいサイズの椅子に変え、体のぐらつきを抑えた。次に枕である。以前の使用していた枕はやわらかすぎて首が支えられず、首・肩こりにも悪いどころかそのせいで睡眠が浅くなっていることにも気づいた。いっそ固い枕がいいのか、そういえば旅館にあるようなそば殻枕は割と合うんだよなと思い出し、似たような枕を探した。そして見つけたのがひのきチップの枕である。頭、首が支えられて安定し、寝覚めもよくなった。最後に筋肉である。ストレッチトレーナーいわく、肩こりには筋肉をつけるのがよいと。確かに私の体幹も首も頭もぐらぐらと不安定なのはそれを支える筋肉が足りないからなのだろう。だからといって筋トレのハードルは高い。プランクやスクワットを時々思い出したようにするが、せめてこれ以上体脂肪を増やさないように気を付けるばかりである。

普段から健康に気を付けていること

旭川医科大学病院病理部 上小倉 佑機

この度、「体のケア、リカバリーの工夫」という特集で記事を書かせて頂き、感謝申し上げます。普段あまり文章を書く機会がありませんが、私なりに健康に気を付けていることを紹介したいと思います。

私は普段、病理部・病理診断科で日々診断業務に取り組んでおります。病理専門医資格を取得してから早3年が経ち、もうすぐ4年になります。基本的に週1で生検・切出・迅速を担当していますが、専攻医の指導もある週は実質週2になります。肉体的・精神的にもかなり消耗したと感ずることが多々あります。診断を行うにあたって、病理医は顕微鏡もしくはパーチャルスライドを使われると思いますが、特に眼精疲労が溜まりやすいのではないのでしょうか。臨床医と比較してどれだけ差があるかはわかりませんが、病理医の眼鏡あるいはコンタクト装用率はかなり高いように感じます（私の部署でもほとんどが眼鏡着用です）。私個人の工夫としましては、なるべく長時間顕微鏡やパソコンの画面を見ないように気を付けています。あまり参考にならないかもしれませんが具体的には、1〜2時間に1回は休憩を行い、休憩中はなるべくパソコンの画面を見ないようにしています。また、パソコンの画面からなるべく離れた位置から見たり（昔アニメを見るときによくテレビのテロップで離れてみてくださいというのが流れていたように思います）、ブルーライトをカットしたりします（次眼鏡を購入する際はブルーライトをカットするレンズにしようと思っています）。ただ、病理医の先生方は人材不足のところも多く、中々まとまった休憩を取ることやパソコン作業がほとんどかもしれません。また、肩こりや腰痛についてですが、特に病理解剖後に腰痛になることが私は多いです。基本的には専攻医とペアで解剖に入りますが、解剖台の高さは専攻医がやりやすい高さに合わせています。そのため解剖台の高さが合わないことも多く、長時間同じ姿勢を取ることが多いため、その日の夜から長い時は数日間腰痛があります。市販のシップや塗り薬を使って対応しますが、使う薬は成分の配合量を見て聞きそうなものを買っています。ドラッグストアなどで買うときに成分を見てみてください。けっこう違うことに最初は驚いたことを覚えています。また、姿勢が良くなると痛みが出にくくなると聞いたこともあるので、週1〜2のペースで水泳を始めました。「筋肉がすべてを解決する」みたいな言葉も聞いたことがありますが、体を動かすことで、日々の業務のストレス解消にもなり、肉体的だけでなく、精神的にも良いと思っています。休みの日はしっかり休んで趣味に没頭するのも良いかもしれません。

以上、長々と記載してしまいましたが、私なりにしていることを書いてみました。少しでも皆様の参考になれば幸いです。

体のケア、リカバリーの工夫

椿岱病理診断クリニック 副院長 高橋 正人

長年にわたる運動習慣を通じて、身体を動かすことの大切さを実感し、それを継続するための工夫を重ねてきました。高校時代にRowing（ボート競技）を始め、大学卒業後もシングルスカルを購入して時折漕いでいました。その後は、平日は近くのフィットネスジムでトレーニングするのが日常となりました。

た。18年前、新しく開設されたフィットネスクラブに移籍した際、LesMills プログラムと出会いました。LesMillsはニュージーランド発の世界的なグループフィットネスプログラムで、Bodycombat（格闘技系ワークアウト）、Bodystep（ステップ台を使ったワークアウト）、BodyPump（バーベルを使ったワークアウト）など、多彩なクラスがあります。特に、Bodycombatでは普段使わないパンチやキックの動きを高速で繰り返す新鮮さに魅了され、ステップクラスでは音楽とインストラクター（イントラ）に合わせて全員で動く一体感がRowingに通じるものを感じました。1レッスンで500カロリー以上消費するため、終わる頃には息が絶え絶えでしたが、回を重ねるごとにできるようになる快感があり、完全にハマっていきました。LesMillsのプログラムは全国のコナミスポーツクラブで提供されているため、旅行先でもスケジュールを調べ、遠征気分であウエーのスタジオに参加することも楽しみの一つになりました。しかし、10年以上続けているとマンネリを感じるようになり、5年前に



写真1 Sh'bam 後のスタジオ仲間たちとの集合写真



写真2 Bodycombat 参加前の筆者のポートレート

新たなフィットネスジムへ移籍。そこでは、BodyJam や Sh'bam といったダンス要素の強いプログラムがあり、初めてのヒップホップやジャズの動きに挑戦しました。ダンス未経験の私にとって、手足や胴体を自在に動かすことはまるで頭の体操でした。繰り返しレッスンに参加することで少しずつ動けるようになり、「もっと上手になりたい」という欲が出てきて、55 歳を過ぎてからジャズダンス教室に通い始めました。現在、ジャズダンスを始めて約 3 年が経ち、ようやく少しずつできる動きが増えてきたところです。新しい動きを習得し、身体を使うことを楽しむ日々が、私にとってのリカバリーの工夫となっています。

全ての道は筋肉に通じる

国際医療福祉大学成田病院 病理診断科 林 雄一郎
座り仕事で目を酷使する病理医にとっての職業病とも言うべき、腰痛や肩こり。これらに悩まされている先生方も多いことであろう。私自身も若かりし頃、顕微鏡の机から立ち上がりようとした際にギックリ腰になり、しばらくはまともに動けなくなった過去がある。あの頃は休みもあまりない忙しい日々を過ごしており、ご多分に漏れず完全に運動不足だった。こんな私自身が克服した手段は、ずばり筋トレで、本格的に行うようになってから腰痛や肩こりに悩まされたことはほとんどない。週 90 分の筋トレは寿命を 4 年延ばすとのエビデンスもあるので、ここは筋トレを始めるほかない。筋トレで一番重要で難しいのは、重いダンベルやバーベルを上げるのではなく、モチベーションを維持して習慣づけることと継続することである。短期集中型のダイエットや筋トレはまず続かないし、ほぼりバウンドする。トレーニング法は様々なメソッドがあふれており、個人の資質や好みにも左右されるので、どれがいいというのは難しい。とりえず始める・持続することが肝心なのでどれでもいいのだが、個人的に家トレはお勧めできない。自宅で手軽にいつでもできるという環境は、始めやすいというメリットがあり、最初の導入には良いと思うが、モチベーションの維持が難しく、単純に言うとならない。いつでもできるという環境は、モチベーションが上がらないから、いつになっても始めないし、すぐにやめてしまう。そもそも、家トレを続けられるような意志の強い持ち主はそもそも運動不足にはなりにくい。ということで、運動不足の方はスポーツジムに入会しよう。ジムのメリットとしては、気軽に筋トレに励めるだけでなく、周りもみんな運動しているのでモチベーションが上がること、正しい器具の使い方などをスタッフに教えてもらえることなど沢山ある。軽い重量でも正しいポジションで行えば、必ず筋肉は付く。最初に入会する時が一番やる気に満ちているので、入会と同時に必ずジムに行く曜日と時間を固定しよう。できれば週 2、週 3 通えば素晴らしいのだが、とにかく最低週 1 はそこには予定を入れず、どんなにきつくても行くということが重要である。習慣

付きさえすれば、運動しないと身体がむずむずするようになる。とにかくここまで何としても頑張ろう。ちなみに個人的には出勤前の朝トレがお勧め。朝トレはハードルが高いかもしれないが、やる気は朝起きた時が一番みなぎっている。やる気は徐々に夕方から夜になるにつれ衰えていき、朝の出勤時には夜にジムやジョギングを行うつもりでいても、夕方以降になるとやる気がしぼんでしまい、あれこれ行かない言い訳を探してしまう。現在は 24 時間オープンしているジムも少なくないので、朝のやる気があるうちにトレーニングを済ませてしまおう。なお、単純に筋トレでも腰痛や肩こりには大変有効であるが、今まで行ってきたメソッドの中で効いたと実感があるのは、元プロアメフト選手の河口正史氏に教わった、仙腸関節を鍛えるメソッドである。教えていただいて時間が経過した今でも、普段の歩き方も意識することで効果は得られていると実感している。トレーニング代はちょっとお高いが、効果はお勧めできる。あと、最近話題のリカバリーウエアも個人的には気に入っており、何となく睡眠の質も改善している気がしている。実際に諸先輩方を見ていても、適度な仕事や運動を続けている先生は単純に元気でお若い。これからも先輩方を見習って、運動を続けていきたい。最後に、慶応の名誉教授である岡田保典先生の格言、「筋肉だけは裏切らない」で締めさせていただく。

体のケア、リカバリーの工夫

三重大学医学研究科腫瘍病理学 広川 佳史

医学部基礎講座に所属する私は、多くの病理医の先生方よりも顕微鏡に向かう時間は短いですが、それでも近年肩こりや腰痛の問題に、年齢に比例して悩まされてきました。体が衰えているのだと思い知らされがっかりしますが、受け入れる以外どうしようもありません。しかしこれらの問題は、仕事のパフォーマンスや生活の質にも悪影響を及ぼしますので、私がやっている体のケアやリカバリーの工夫について、具体的な方法や健康法を紹介します。科学的根拠は不明、血道を上げてやっているわけではないことを申し添えます。

肩こりの解消

肩こりには日常的に悩まされています。肩こりの解消には、肩や首周りを重点的に伸ばすストレッチを日常的に行うことで、筋肉の緊張をほぐすことができると言われています。私が最近取り入れて効果がある方法は、肩を上げて 10 秒ほどキープし、その後リラックスする動作を数回繰り返すのですが、肩を上げている間反対側の手のひらで軽く上げている肩の筋肉を押さえます。たいして力はかけません。肩がだるくなったら下ろす感じです。これだけのことでかなり楽になります。しかしながら根本的に肩こりが解消するわけではありません。

五十肩予防運動

元教授が五十肩になったのを間近で見て、あれになってはマズいと思って始めた運動です。これはほぼ毎日習慣としてやっ

ています。右手および左手の指先をそれぞれの肩に軽く触れます。この形で肩をまず前方に、泳ぐように回します。10回転して今度は逆回転で10回です。今のところ五十肩にはなっておりません。

腰痛の予防

腰痛を予防するためには、日常的に運動を取り入れることが重要です。特に、筋力トレーニングや有酸素運動を行うことで、腰周りの筋肉を強化し、腰への負担を軽減することが重要、というのは言うがやすしです。器質的疾患以外の原因は様々ですが運動不足が最たるものでしょうか。アフリカのブッシュマンは狩猟の為、毎日何キロメートルもサバンナを走り抜けていて腰痛などないらしいです。日本人は腰痛に悩まされていると言うとそれは病気じゃないかと言われた、笑うに笑えない話があります。私もストレスが原因と考えられる腰痛に悩まされた時期がありましたが、最近では軽快し、かわりに慢性の蕁麻疹へとフェノタイプが変化しました。腰痛も蕁麻疹も共にストレスが原因でおこります。要するにメンタルヘルスのケア問題です。私は専門家ではありませんがメンタルを鍛える方法などないと思います。頭がおかしいと思われるかもしれませんが、私の対処方は毎晩シャワーで体を洗って温まった後、冷水にして浴びることです。始めたきっかけは、PTSDになった女性が真冬のアイスランドのゼロ度以下の海に、ボンベなしのフリーダイビングをすることでPTSDを克服した、というドキュメンタリーからです。心と体が結びついていると考え、心を強くするには体を強く、ストレスに耐えるものにする、という考え方だと思います。冷水シャワーの効果は完全なものではなく、蕁麻疹は解消していません。症状がマシになったかもしれませんが、完璧な方法はないのでしょう。

ここで紹介した運動は簡単ですがいずれも無理は禁物です。徐々に始めるのがよいと思います。特に冷水シャワーはもしトライされるのであれば、夏頃からにしてください。高血圧や糖尿病をお持ちの方はヒートショックの危険があるため、やらないでください。

私の体のケア・リカバリーの工夫

京都大学医学部附属病院 病理診断科 竹内 康英
病理医として働き始めて10数年、日々の診断・研究業務の中で、心身のケアを意識的に行うことが非常に大切だと感じています。長時間顕微鏡をのぞき込む、PCで大量の文章を入力する、ピペッティングで試薬を混ぜる、など、細かい作業することが日常的であり、心身に大きな負担がかかっていることを日々実感しており、リカバリーのための習慣を、意図的・積極的に取り入れるようにしています。

まず、日々の仕事の前後で特に注意しているのは、手首や指のケアです。上記の様に、病理医として、あるいは研究者としての業務は手首や肩に大きな負担がかかります。そこで、私は

漫画『岸辺露伴は動かない』に登場する漫画家の岸部露伴が行っているストレッチに影響を受けて、その方法を取り入れています。同漫画は数年前にNHKでドラマ化されて、俳優の高橋一生が主演をつとめ話題となったこともありご存じのかたもいらっしゃるかもしれません。以下の様なストレッチになります(youtubeで“岸辺露伴 ストレッチ”ご検索いただければ、わかりやすい動画で動きをご確認いただけます)。

1. まず、両側手掌を内側に向ける形で両上肢を真上にあげたのち、手首を90度外側に曲げ、手掌を上に向けます。各指は曲げず、しばらくまっすぐに保ちます。

2. 手首の角度をたもったまま、肘をのばした状態でジョジョに手掌を外側に向けつつ腕を水平180度に伸ばす形におろします。

3. 手首の角度はそのまま、肘をのばした状態で、掌が前をむく様に腕をまわします。

4. 手首の角度はそのまま、腕をのばした状態で、掌を前にむけたまま、「1、2、3、4、5」とゆっくり数えながら指を親指から一本ずつ折り曲げ、すべて曲げおわったら逆の順番に指を伸ばしていきます。

これを1セットとして、1日に何度か繰り返すことが私の日常の一部となっています。このストレッチは非常に簡単にできる上に、手首・肩のコリを効果的にほぐことができ、短時間で効果を実感できるので、非常に便利です。

また、睡眠の質を高めるために、寝室の環境を整えることを心がけています。仕事の後にリラックスできる時間を確保し、寝室ではスマートフォンやパソコンの画面を見ないようにしています。また数年に一度、自分の誕生日の際にテンピュール社製の低反発枕を新調し、自分の体形にあった枕を使うことで、睡眠中の姿勢をよくする様につとめています。睡眠環境を整えることで、質の良い睡眠を得ることができ、翌日の仕事に対する集中力を維持できるようにしています。

以上のような習慣をこころがけ、日々の仕事の中で、体のケアを意識的に行っています。手首や指・肩のストレッチ、睡眠環境の改善など、少しずつ取り入れることで、仕事のパフォーマンスを維持できる様、今後もつとめていくつもりです。

吉野川市お湯巡り

徳島県立中央病院病理診断科 佐竹 宣法

私が3月末まで勤務していた吉野川医療センターは徳島県中西部、吉野川市にあり、南北を山に囲まれ、平地には田園や畑、そして中央を四国三郎の名で知られる吉野川が流れる人口3万7千人ほどののどかな街です。農業、林業、建築建設業に携わる方が他地域より多く、それが理由かはわかりませんが、スーパー銭湯、温泉が都市部よりも多い印象を受けます。体のケアについては全く無頓着な私ですが、車の後ろに100均で購入した籠とタオル、ボディソープ、シャンプー一式からなるお風呂

セットを常備し、休日出勤の帰りや少し遅くなった仕事帰りに近所のスーパー銭湯、温泉に立ち寄ります。お湯に浸かると元気になります。

四国は火山帯ではなく、道後温泉など少数の温泉を除いて四国内の温泉は冷泉を加温しているところが多いです。加温している関係で他地域の温泉と比較して掛け流しは少ないと思われます。あいにく男湯の事情しかわからないなど、正確性とか実用性に乏しいかもしれませんが、吉野川医療センター周辺のお湯事情について記したいと思います。

●鴨島温泉鴨の湯

吉野川医療センターの最寄りの温泉です。小さめの浴室ですが、夕方とかはご近所のご高齢の方で賑わい、近所の遍路宿に宿泊している方が入浴に來られます。備え付けの石けんがあるのが珍しいと思います。

●天然温泉 御所の郷

吉野川医療センターから行きますと阿波中央橋を渡り、吉野川を隔てた対岸の阿波市にあります。車で10分くらいです。スチームサウナ、高温低温サウナ、ジャクジータイプの露天風呂、打たせ湯など施設的に満足度が高いです。地元のお野菜を販売している直販所を併設しています。道中の国道318号線のロードサイドは夏から秋にかけてはブドウ、冬の終わりから春にかけてはイチゴを販売する露店が点在しています。

●ふいご温泉

吉野川市山川町にある温泉で、銅山の跡地とのことです。吉野川医療センターからは車で30分くらい。秘湯、秘境って感じの温泉です。県道248号線から分かれて車で下る坂道は急で、冬の路面凍結時期にノーマルタイヤで来るのはお勧めしません。浴室の眼下に見える溪谷はとても綺麗です。宿泊することも出来、お部屋もとても綺麗です。COVID-19が流行し心が荒んでいた時期に宿泊し、癒やされました。

●神山温泉

ホテルに併設した温泉で、天井工事が終わり再開しました。隣の名西郡神山町にある綺麗な施設です。土日午後から夕方にかけて地元の方や近隣市町村から來られたお客様で賑わいます。内風呂の泉質はぬるっとしており暖まります。近所にある道の駅でシャーベットの味わうのが僕のルーチンとなっています。ある日、風呂に入ろうと脱衣所で服を脱いでいたら、見覚えがある方に気付きました。徳島大学疾患病理学分野の常山教授でした。常山教授もお湯好きのようです。以上、吉野川医療センター周辺のお湯事情でした。皆様、健康に気を付けましょう。

わたし（たち）が実践する負担軽減の工夫と取り組み

久留米大学医学部病理学講座 谷川 雅彦

今回のテーマに沿った私個人の取り組みをお伝えしようとも思いましたが、この際、職場の同僚の声も聞いてみようと思い、

アンケートを実施し、日常的に感じる身体の不調や、それに対する対策・リカバリーの工夫について調査しました。計16名のスタッフ（大学院生、専攻医、専門医）から回答を得ました。

アンケートの結果は予想通りで、肩こりや腰痛の訴えが多く、眼精疲労や老眼、睡眠不足など、視覚や全身の疲労に関連する症状が見受けられました。病理医の業務の特殊性（デスクワーク時間が長い、パソコン使用時間など）による身体的な負担が蓄積しやすいことが窺えました。

これらの不調に対し、私も含めて多くの同僚がストレッチを日常的に取り入れていました。特に、首・肩・腰を中心に簡単な運動をおすすめする方が多く、短時間に行うことが継続の秘訣となり、隣席の仲間と一緒に行うといいかもしれません。適度な休憩や仮眠も重要な対策として挙げられ、15分程度の短時間の仮眠を取り入れることで、集中力の回復や疲労軽減に役立つとの意見もありました。ただし、仮眠を取り過ぎると倦怠感が強くなり逆効果となるため、時間管理も重要です。

業務中の負担軽減策としては、適度に立ち上がる、歩く、階段昇降を行うといった、座りっぱなしを防ぐ工夫が実践されていました。椅子をバランスボールに交換して使用する同僚もいて、本人曰く腰痛（ぎっくり腰）が消失したとの効果を実感している様子です（注：個人差があります）。また、職場から見える学生の部活動の様子や遠くの山々（耳納連山）をみて、リフレッシュを図るという意見など個人に趣向に併せて対策を独自に行っているようでした。

業務中だけでなく、日常生活の中での工夫も重要です。夜19時以降はコーヒーを控える、エアコンを適切に使用するなど、生活習慣を見直すことで体調を整える取り組みも見られました。睡眠の質を向上させることが、翌日のパフォーマンスに大きく影響するという認識が共有されています。中には、「飯・



職場には複数のアロマが常備されており、季節や天候に合わせて秘書が香りをセレクトしています。まるで高級ホテルのスイートルームで診断業務を行っているような、贅沢な気分になれることもあります。（表現には多少の誇張を含みますが、感じ方には個人差があります。）

風呂・睡眠だけは妥協しない」と確固たる信念を持った力強い意見もあり、基本的な生活習慣を整えることが最も効果的なリカバリー手段であると考えられます。

個人的な取り組みだけではなく、私たちの職場ではアロマデューフューザーを用いたアロマセラピー（芳香浴）を実施し、心身をリラックスさせる工夫も取り入れています（写真）。アロマセラピーで使用する「精油」の芳香成分は、自律神経やホルモン、感情を司る機能に働きかけるとされています。特に、副交感神経を優位にする精油を用いることで、肩や腰のこわばりを緩和し、目の疲れを軽減する効果が期待できます。また、天然の香りが漂うことで呼吸が深くなり、心身の緊張を和らげることもつながります。芳香浴をしながら軽いストレッチを行うことで、より効果的な疲労回復が期待できます。

今回のアンケートを通じて、病理医が健康的に業務を続けるためには、日常のストレッチや適切な休息の確保、作業環境の調整が重要であることが改めて確認されました。小さな工夫を積み重ねることで、長期的な健康維持につながると考えられます。今後も快適な職場環境を整え、病理医としての業務に集中できるよう努めていきたいと思えます。

体のケア、リカバリーの工夫

長崎大学病院 病理診断科・病理部 松岡 優毅
「腰痛、肩こり、坐骨神経痛、痔がそろって初めて一人前の病理医なんだよ。」

症例ディスカッション後のティータイム、恩師から学んだ“病理医の嗜み”。病理医としてまだまだ一人前とは言いがたい7年目にして腰痛から痔までのすべてを達成してしまった。車のようにパーツ取り換えが出来ればどれだけいいか、と思うこともある。せめても健康な病理医でありたいもので、私の日々の工夫を3つ紹介したいと思う。

其の壱：丸椅子のすゝめ。

私は診断時に丸椅子を使う。座面はやや硬め、ちょうど診察室で患者さんが座るようなサイズのものである。もたれかからないために自然と体幹が締まり前後左右のバランスの崩れが出にくくなる。また、不安定故に足をしっかりつけて座る癖がつくが、膝が90度となる高さに調節することで座骨付近にかかる荷重が軽減できる。硬めという点も実は大事で、あえて長時間座ることに不向きにすることで、定期的に立ちあがることを狙っている。お財布にも優しく、偉そうな感じが微塵もしない点もうれしい。

其の貳：動的ストレッチのすゝめ

“病理医の嗜み”は主に血流のうっ滞からくると思っている。血流のうっ滞はただ筋肉を伸ばすだけの静的ストレッチ程度では到底解消しない。年を取ると伸ばすものがそもそも少なくなるわけで、効果が薄いのは至極当然のことである。動的ストレッチでは筋肉に適度に刺激を入れながら、脂肪燃焼を図り、筋力



相棒

維持も狙える。しかし、動的ストレッチと言っても何それ？の方も多と思う。究極の動的ストレッチ、それはラジオ体操第一である。私自身は通して全部することはなく、椅子から立ち上がったときに数種取り入れ実践することが多い。最近はYouTubeでも多数の動画が挙げられており便利になった、週末妻とともに取り組むことも多い。個人的には、自分の体形・年齢に近いYouTuberの動画に親近感を感じる。

其の参：湯のすゝめ

私の暮らす九州には別府、嬉野、湯布院、霧島、指宿、雲仙など、温泉地がある。温泉が体によいのは自明の理、温泉は心のプロテインでもある。ぜひ日々の疲れを九州の温泉とご当地食で癒されたし。

以下、番外編ではあるが近しい同業者の意見も聞いてみた。

S先生：脱水は健康の大敵。こまめに水を飲むようにしてから調子が整いました。

B & Y技師：肩こり、腰痛なども確かにありますね。顕微鏡を使うときに腕が机の角で圧迫されてそこに色素沈着してしまっているので、そこが地味に嫌です。圧がかからないようにはしています。でも、これと言って対策はできてないですが。

自分の目を向けていない部位にも不調が出てくるかもしれない。仕事においても健康においても仲間との意見交換が大事なようだ。

最後に、自分の健康を見つめなおすきっかけを与えていただいた九州大学立石先生には感謝申し上げたい。

== 支部報告 ==

--- 北海道支部 ---

北海道支部会報編集委員 杉田 真太郎

学術活動報告

2025年2月1日（土）、第208回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交展会）が市原真先生（JA 北海道厚生連 札幌厚生病院 病理診断科）のお世話のもと、札幌厚生病院新棟3階大会議室において開催されました。

症例検討は以下の通りです。

症例検討

症例番号/演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/臓器名（主なもの）/発表者の病理診断

24-17: 10代後半女性の足趾腫瘍の一例/坂田玲¹、湯澤明夏¹、劉佳遥¹、水上奨一郎¹、林真奈実¹、上小倉佑機¹、青木直子¹、岸部麻里²、山本明美²、谷野美智枝¹/旭川医科大学 病院病理部、²旭川医科大学病院 皮膚科学講座/10代後半/女性/皮膚/

Digital papillary adenocarcinoma

24-18: 臨床的に原発性アルドステロン症とサブクリニカルクッシング症候群を合併した副腎多発結節の1例/中桐悠一郎¹、片山優子^{1,2}、青山怜史¹、山口貴子¹、石井保志¹、馬場周平³、和田典男³、三浪圭太⁴、西本紘嗣郎⁵、向井邦晃⁶、辻隆裕¹/市立札幌病院病理診断科、²北海道大学大学院医学研究院統合病理学教室、³市立札幌病院糖尿病内分泌内科、⁴市立札幌病院泌尿器科、⁵宮崎大学医学部泌尿器科、⁶慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター/50歳代前半/男性/副腎/

Multiple aldosterone producing micronodules

24-19: 若年男性に発生した側脳室内腫瘍の一例/桑原傑¹、小田義崇¹、藤原雄介²、伊勢昂生¹、王磊³、種井善一⁴、津田真寿美^{1,3}、田中伸哉^{1,3,4}/北海道大学大学院医学研究院腫瘍病理学教室、²医療法人秀友会札幌秀友会病院、³北海道大学化学反応創成研究拠点、⁴北海道大学病院病理部病理診断科/30代/男性/脳/

脂肪細胞を混じる central neurocytoma (so-called central liponeurocytoma)

24-20: 多発リンパ節腫大、肝脾腫、多発性骨硬化を来した高齢男性のリンパ節、骨病変/村上太郎¹、菊地慶介¹/JA 北海道厚生連帯広厚生病院病理診断科/60歳代/男性/リンパ節/

Systemic mastocytosis

24-21: 心窩部痛を契機に指摘された若年女性の右卵巣腫瘍の一例/高橋利明¹、桑原健¹、古屋充子²、高桑恵美³、岩田玲⁴、見延進一郎⁵、中澤温子⁶、松野吉宏⁷/北海道がんセンター病理診断科、²北海道大学病院病理診断科、³恵佑会札幌病院病理診断科、⁴北海道がんセンター骨軟部腫瘍科、⁵北海道がんセンター婦人科、⁶埼玉県立小児医療センター臨床検査部、⁷北海道がんセンター パソロジーセンター/20歳代/女性/卵巣/

Ewing sarcoma, *EWSR1::ERG* fusion positive

24-22: 60代女性のリンパ節病変/菊地慶介¹、村上太郎¹/JA 北海道厚生連帯広厚生病院病理診断科/60歳代/女性/リンパ節/

Nodal TFH cell lymphoma, follicular type

24-23: 多彩な像を呈し、形質転換が示唆された肺癌の一例/山角哲弘^{1,2}、石田雄介^{1,2}、木村太一^{1,2}、小田義崇^{2,3}、王磊^{2,4}、種井善一^{2,3}、津田真寿美^{2,4}、田中伸哉^{2,3,4}/国立病院機構北海道医療センター病理診断科、²北海道大学大学院医学研究院・医学部腫瘍病理学教室、³北海道大学病院病理診断科、⁴北海道大学化学反応創成研究拠点 (ICReDD) /70歳代/女性/肺/

Combined large cell neuroendocrine carcinoma (LCNEC) and adenocarcinoma

24-24: 潰瘍性大腸炎寛解期の surveillance colonoscopy で指摘された大腸病変ならびにその周縁病変/市原真¹、佐々木美羽¹、杉本亮²、菅井有³、牧野吉倫¹、岩口佳史¹、村岡俊二¹、高木将⁴、大林直人⁴、寺門洋平⁴/札幌厚生病院 病理診断科、²岩手医科大学病院 病理診断科、³総合南東北病院 病理診断科、⁴札幌厚生病院 胃腸科/70歳代/男性/大腸/

Tubular adenocarcinoma with serrated epithelial change-like unclassified serrated lesion with *PTPRK::RSPO3* fusion

--- 東北支部 ---

東北支部会報編集委員 鈴木 麻弥

1 活動報告

第100回日本病理学会東北支部学術集会が、下記の内容で開催されました。

日 時: 2025年2月15日（土）、16日（日）

会 場: 東北大学医学部 長陵会館記念ホール（仙台）

会 長: 秋田大学大学院医学系研究科

分子病態学・腫瘍病態学講座

教授 大森泰文先生

【教育講演】

『心アミロイドーシスの現況と病理診断上の問題点』

演者: 国立循環器病研究センター病理部病理診断科

医長 池田善彦先生

座長: 秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学・腫瘍病態学講座

教授 大森泰文先生

【特別講演】

『脾臓に特異的な血管間質性腫瘍について』

演者: 岩手医科大学医学部 病理診断学講座

教授 佐藤 孝先生

座長: 福島県立医科大学医学部 病理病態診断学講座

教授 橋本優子先生

【一般演題】（敬称略）

座長: 西田浩彰（新潟県立がんセンター新潟病院 病理診断科）

1. 両側肺における多発結節性病変の一例

塩谷郁美 他（秋田大学大学院医学系研究科分子病態学・腫瘍病態学講座 他）

2. 肺に発生した上皮性病変の一例

片倉康敬 他（NHO 仙台医療センター病理診断科 他）

3. 肺腫瘍の一例 [最優秀発表演題]

島野賢一 他（東北大学医学部医学科 他）

座長: 川名 聡（福島県立医科大学医学部 病理病態診断学講座）

4. 膀胱腫瘍の一例 [優秀発表演題]

畠山 遥 他（秋田大学大学院医学系研究科分子病態学・腫瘍病態学講座 他）

5. 分娩後異常出血の一例

刑部光正 他（岩手医科大学医学部 病理診断学講座）

6. 長期遷延するリンパ節腫大の一例 [優秀発表演題]

櫛引英恵 他（弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座 他）

7. 頸部リンパ節腫大を呈した一例

前田邦彦 他（公立置賜総合病院病理科 他）

座長：國吉真平（気仙沼市立病院 病理診断科）

8. 中高年女性で小脳病変発症から月単位に意識障害に進行した一部
検例〔優秀発表演題〕

ノーシャリナ・ビンティ・シェイクスピア 他
（福島県立医科大学医学部 病理病態診断学講座）

9. 円蓋部腫瘍の一例

廣嶋優子 他（秋田大学医学部附属病院 病理診断科・病理部）

10. 稀な小児脳腫瘍

中山璃菜 他（弘前大学医学部医学科 他）

座長：岡 直美（NHO 仙台医療センター病理診断科）

11. 胆嚢床腫瘍の一例

岸野天音 他（山形大学医学部医学科 他）

12. 腹部腫瘍の一例

近藤修平 他（新潟大学医歯学総合病院 病理部）

13. 小腸腫瘍の一例

鈴木正通 他（総合南東北病院病理診断学センター 他）

14. 腸間膜腫瘍の一例

柳川直樹 他（岩手医科大学医学部病理診断学講座）

2 開催予定

第 101 回日本病理学会東北支部学術集会

日 時：2025 年 7 月 12 日（土）、13 日（日）

会 場：山形医学交流会館（山形大学医学部内）

会 長：山形大学医学部病理診断学講座

教授 二口 充先生

第 12 回病理夏の学校

日 時：2025 年 8 月 23 日（土）

会 場：弘前大学医学部 健康未来イノベーションセンター
（web 同時開催）

会 長：弘前大学大学院医学研究科 分子病態病理学講座

教授 水上浩哉先生

-- 関東支部 -----

関東支部会編集委員 林 雄一郎

開催報告

第 105 回日本病理学会関東支部学術集会が下記の日程で開催
されました。

日 時：2025 年 3 月 8 日（土）13：00～16：30

会 場：杏林大学三鷹キャンパス 大学院講堂

世話人：藤原正親先生（杏林大学医学部病理学教室）

特別講演 1「TNM 分類の改訂と肺癌取扱い規約第 9 版」

演者：谷田部恭先生（国立がん研究センター

中央病院病理診断科研究所分子病理分野）

座長：藤原正親先生（杏林大学医学部病理学教室）

前半の部 座長：里見介史先生（杏林大学医学部病理学教室）

一般演題 1「IDH1-R132H 陽性および陰性の成分を有するびまん性膠腫
の 1 例」

演者：千葉知宏先生（がん研有明病院病理部・細胞診断部）

一般演題 2「TFE3 遺伝子再構成を有する縦隔間葉系腫瘍の 1 例」

演者：加藤憲一郎先生（杏林大学医学部病理学教室）

特別講演 2「胸腺上皮性腫瘍の病理診断」

演者：山田洋介先生（東京大学医学部分子病理学分野）

座長：長濱清隆先生（杏林大学医学部病理学教室）

後半の部 座長：林 玲匡先生（杏林大学医学部病理学教室）

一般演題 3「稀な組織像を呈した甲状腺腫瘍の一例」

演者：川井田みほ先生（伊藤病院病理診断科）

一般演題 4「Sinusoidal pattern を示した肺の静脈性血管腫の一例」

演者：橋本浩次先生（東京女子医科大学病理学）

開催予定

第 106 回日本病理学会関東支部学術集会のお知らせ

日 時：2025 年 6 月 7 日（土）13：00～17：00（予定）

会 場：（大宮ソニックシティ小ホール）への来場および
ZOOM による LIVE 配信

参加費：1,900 円

世話人：大城 久先生（自治医科大学附属さいたま医療セン
ター病理診断科）

テーマ：リンパ腫の病理診断 up to date

プログラム（予定）

教育講演：東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 中村直哉先生

「リンパ腫の新 WHO 分類」（仮題）

特別講演：リンパ腫の病理診断の豆知識

公益財団法人がん研究会 がん研究所病理部

がん研究所分子標的病理プロジェクト

がん研有明病院臨床病理センター

竹内賢吾先生

「一般病理医が知っておくべきリンパ腫診断の豆知識

—稀な組織型や診断のビットフォールを含めて—」（仮題）

ミニレクチャー 1：埼玉県立小児医療センター臨床研究部

中澤温子先生

「小児のリンパ腫の特徴と診断のコツ」（仮題）

ミニレクチャー 2：埼玉医科大学総合医療センター病理部

百瀬修二先生

「Hodgkin リンパ腫とその鑑別疾患」（仮題）

-- 中部支部 -----

中部支部会報編集委員 浦野 誠

第 93 回日本病理学会中部支部交見会

日 時：2024 年 12 月 21 日（土）

場 所：藤田医科大学

世話人：南口早智子先生（藤田医科大学）

加藤 省一先生（佐賀医科大学）

参加者：132 名

【症例検討】

座長：露木悠太（藤田医科大学病院 病理診断センター）

- 1616 藤田医科大学医学部病理診断学講座 近藤由佳 50代 女性 子宮
Cord and hyalinized endometrioid carcinoma (CHEC)
子宮を全置換する大型腫瘍で、異型の強い類内膜癌成分と粘液硝子様成分から構成されていた。本組織型の多くでは予後良好であり、癌肉腫との鑑別の必要性、 β -catenin 染色の意義が考察された。
- 1617 津島市民病院 市原亮介 80代 女性 軟部
Pleomorphic dermal sarcoma (PDS)
背部に発生した隆起性皮膚腫瘍で、真皮を主座とし多形細胞、紡錘形細胞が増殖していた。atypical fibroxanthoma との鑑別が問題となったが、わずかに皮下組織に浸潤を示すことから PDS の診断となった。
- 1618 JA 愛知厚生連海南病院 露木琢司 30代 女性 皮膚
CIC-rearranged sarcoma
真皮内に発生した小型結節形成性の充実性腫瘍で、当該組織型の既報告に多い小円形細胞とは異なる核異型に富む淡明細胞の増殖を認めた。脂腺癌の投票が多かった。WT-1、ETV4 が陽性を呈した。
- 1619 名古屋医療センター 都築恵美 50代 女性 皮膚
Angioimmunoblastic T cell lymphoma, favor
COVID-19 ワクチン接種後の皮膚病変。当初 MALT リンパ腫として治療が行われたが遷延し、経過中に TCR 再構成が確認された。背景の B 細胞にコロナリティがみられたこと、ワクチン接種との関連性について考察された。
- 座長：中川 満（藤田医科大学 岡崎医療センター）
- 1620 岐阜大学医学部附属病院 小林一博 70代 男性 唾液腺
Sclerosing polycystic adenoma (SPA)
充実部と多嚢胞部分からなる顎下腺腫瘍。腺房の好酸性変化と拡張導管の皮脂腺分化がみられ、オンコサイトーマの鑑別が問題となった。SPA の定型像との比較、画像所見との整合性についての討論があった。
- 1621 江南厚生病院/名古屋大学医学部附属病院 安藤拓朗 60代 男性
鼻・副鼻腔
Sinonasal glomangiopericytoma
分岐状の拡張血管周囲に卵円形～紡錘形核細胞が増殖していた。 β -catenin、 α -SMA に陽性を呈し CTNBN1 遺伝子変異が確認された。glomus tumor、solitary fibrous tumor との鑑別が述べられた。
- 1622 小牧市民病院 栗原恭子 40代 男性 頭頸部
Spindle-cell variant of ameloblastic carcinoma
長期の経過でエナメル上皮腫の鼻腔再発とエナメル上皮癌の顎下リンパ節への転移がみられた症例。後者は二相性を疑う紡錘形細胞性腫瘍像で滑膜肉腫が鑑別に考慮されたが、SYT 変異はなく、鼻腔、顎下部ともに BRAF 変異を認めた。
- 1623 石川県立中央病院 橋本未紅 40代 男性 大腸
Schwann cell hamartoma
粘膜固有層内に核異型に乏しい紡錘形細胞が境界不明瞭に粘膜固有層に増殖していた LST 例。S-100、SOX10 陽性を認めた。本病変は通常ポリープ状を呈することが多いこと、神経周皮腫との鑑別が説明された。
- 座長：村松 彩（藤田医科大学病院 病理診断センター）
- 1624 鈴鹿中央総合病院 朝川可奈 40代 男性 肺
Mucoepidermoid carcinoma, low grade
気管支内に発生した粘表皮癌例。MAML2 変異が確認された。唾液腺に比べると類扁平上皮細胞が少ないことが述べられた。投票は一致していた。

- 1625 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 白木健太 70代 男性 肺
Low-grade bronchial adenocarcinoma with ETV6::NTRK3 fusion
気管支壁から連続する乳頭状腫瘍で間質浸潤を伴っていた。Low-grade non-intestinal-type sinonasal adenocarcinoma との組織類似性がみられ、NKX3.1 染色陽性であった。投票は良悪性が割れた。
- 1626 富山大学附属病院病理診断科 平林健一 50代 女性 肝臓
High grade neuroendocrine neoplasm (NEN)
脾 NET G3 の肝転移生検組織。経過中の遺伝子検出で Rb loss が確認され、ペプチド受容体核医学内用療法で治療縮小を認めた。NET から NEC への形質転換や NET と NEC の中間的な病変の可能性が考察された。
- 1627 名古屋大学医学部附属病院 佐竹知機 70代 男性 脾臓
Mixed acinar-neuroendocrine carcinoma
腺房細胞癌様部分と NET 部分が隣接する腫瘍で、Trypsin と神経内分泌マーカーが共発現をしていた。腺房細胞癌部の Ki-67 が低値であり、腺房分化を伴う NET との鑑別が討論された。
- 座長：杉本暁彦（藤田医科大学病院 病理診断科）
- 1628 富山大学法医学講座 一萬田正二郎 30代 男性 腎臓
Ketoacidosis (Alcohol-related)
アルコール多飲者の剖検腎。尿管上皮の空胞形成がみられ、脂肪染色に陽性を呈した。低栄養状態に伴うケトアシドーシスが示唆され、血清中の β ヒドロキシ酪酸値の測定が診断に有用であると述べられた。
- 1629 岐阜大学大学院医学系研究科腫瘍病理学/岐阜大学医学部附属病院病理部 大久保貴史 60代 男性 心臓
Pericardial mesothelioma
収縮性心膜炎が疑われた心不全患者の心膜を全周性に置換増殖した二相型中皮腫症例。肺への浸潤を伴い、肺内にアスベスト小体が認められた。CDKN2A/p16 遺伝子のホモ接合性欠失はみられなかった
- 1630 富山市民病院病理診断科/NHO 医王病院研究検査科 中田聡子 70代 男性 脳神経
Low-grade glioneuronal tumor adjacent to the trigeminal nerve, CNS WHO grade 2
三叉神経近傍の病変で淡好酸性類円形細胞が胞巣状、ロゼット状に増殖し、KIAA1549::BRAF fusion を認めた。glioneuronal heterotopia/hamartoma を背景とした腫瘍発生の可能性が考察された。
- 1631 藤田医科大学研究推進本部腫瘍医学研究センター解析病理部門 山田勢至 70代 女性 脳
SEGA-like low-grade circumscribed glioma, harboring NF1-alteration
高齢者に発生した SEGA 類似の脳室内 glioma 症例。メチル化解析では glioblastoma, IDH-wildtype に類似し、分子遺伝学的にも glioblastoma の特徴を有していたが限局性病変であり、遺伝子情報の解釈と組織評価の連携の重要性が述べられた。

【第 92 回日本病理学会中部支部交歓会 優秀演題賞受賞者】
学術奨励賞 内藤 裕先生（名古屋大学医学部附属病院）
学術奨励優秀発表賞 八木春奈先生（名古屋大学医学部附属病院）

次回学術集会予定

第 94 回日本病理学会中部支部交歓会

日 時：2025 年 7 月 19 日（土）

場 所：福井市地域交流プラザ アオッサ

世話人：大越忠和先生（福井赤十字病院）

第 95 回日本病理学会中部支部交見会

日 時：2025 年 12 月 20 日（土）

場 所：名古屋医療センター 講堂

世話人：西村理恵子先生（名古屋医療センター）

-- 近畿支部 -----

近畿支部会報編集委員 竹内 康英

I. 活動報告

a) 日本病理学会近畿支部第 107 回学術集会

令和 6 年 12 月 21 日（土）、日本病理学会近畿支部第 107 回学術集会が開催されました。検討症例、画像等につきましては近畿支部ホームページ（<http://jspk.umin.jp/>）にて閲覧可能です。アカウント・パスワードの必要な方は近畿支部事務局（kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp）までお尋ね下さい。

11:10～11:20 開会の挨拶：

山下大祐先生（神戸市立医療センター 中央市民病院）

11:20～11:40

■症例検討 1021

コメンテーター：小松正人先生（兵庫県立がんセンター 病理診断科）

『横行結腸腫瘍の一例』

杉村周亮先生、他（滋賀医科大学医学部附属病院 病理診断科）

11:40～12:00

■症例検討 1022

コメンテーター：清水重喜先生（近畿中央呼吸器センター 臨床検査部）

『肺腫瘍の一例』

藤本正数先生、他（京都大学医学部附属病院 病理診断科）

12:00～13:00 休憩

13:00～14:00

■特別講演

座長：羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院 病理診断科）

『Castleman 病の歴史、病態病理および mimicker との鑑別』

佐藤康晴先生（岡山大学学術研究院保健学域 分子血液病理学）

14:00～14:10 休憩（10 分間）

14:10～15:10

■教育講演 1

座長：梶本和義先生（兵庫県立がんセンター 病理診断科）

『EBV 関連非腫瘍性リンパ節病変とその鑑別』

加藤省一先生（佐賀大学医学部 病因病態科学講座 診断病理学）

15:10～15:20 休憩（10 分間）

15:20～15:50

■教育講演 2

座長：藤本正数先生（京都大学医学部附属病院 病理診断科）

『IgG4 関連疾患の組織像 ～リンパ節病変を中心に～』

佐藤 啓先生（名古屋大学医学部附属病院 病理部）

15:50～16:20

■教育講演 3

座長：藤本正数先生（京都大学医学部附属病院 病理診断科）

『菊池病や木村病などの境界病変』

大江倫太郎先生（山形大学医学部 病理診断学講座）

16:20～16:30 閉会の挨拶、次回開催案内

羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院 病理診断科）

b) 日本病理学会近畿支部第 108 回学術集会

令和 7 年 2 月 1 日（土）、日本病理学会近畿支部第 108 回学術集会が下記の内容で開催されました。検討症例、画像等につきましては近畿支部ホームページ（<http://jspk.umin.jp/>）にて閲覧可能です。アカウント・パスワードの必要な方は近畿支部事務局（kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp）までお尋ね下さい。

10:00～10:10 開会の挨拶：

安原裕美子先生（堺市立総合医療センター病理診断科）

10:10～11:30

■学生・研修医セッション 005

コメンテーター：羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）

『リンパ節病変の一例』

上田真生先生、他（堺市立総合医療センター臨床研修医）

■症例検討 1023

コメンテーター：藤本正数先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）

『顎下腺腫瘍の一例』

五十川賢司先生、他（滋賀医科大学医学部附属病院病理診断科）

■症例検討 1024

コメンテーター：栗栖義賢先生（大阪医科薬科大学病理学教室）

『顎下部腫瘍の一例』

塚本修一先生、他（神戸大学大学院医学研究科病理学講座

分子病理学分野・病理診断学分野）

■症例検討 1025

コメンテーター：西尾真理先生（神戸大学大学院医学研究科
病理学講座病理学分野）

『上顎腫瘍の一例』

中嶋七海先生、他（大阪市立総合医療センター病理診断科）

11:30～13:00 休憩（※ 11:45～12:45 幹事会開催）

13:00～14:00

■特別講演

座長：羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）

『免疫チェックポイント阻害剤（ICI）による副作用（Ir-AE）～ICI 導入により変革を迫られた臨床現場から～』

里内美弥子先生（兵庫県立がんセンター呼吸器内科）

14:00～14:20 休憩

14:20～15:20

■教育講演 1

座長：安原裕美子先生（堺市立総合医療センター病理診断科）

『あたらしい薬疹の皮膚病理』

藤本正数先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）

15:20～15:30 休憩

15:30～16:30

■教育講演 2

座長：藤本正数先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）

『薬剤性の消化管病理

～免疫チェックポイント阻害薬による腸炎を中心に～』

藤田泰子先生（愛知がんセンター遺伝子病理診断部）

16:30～16:40 閉会の挨拶、次回開催案内

羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）

II. 今後の活動予定

第 109, 110 回学術集会は下記の開催を予定しております。
専門医資格更新単位の発行を予定しています。参加登録方法は
近畿支部ホームページにて案内予定です。

第 109 回学術集会

開催日：2025 年 5 月 17 日（土）

会 場：大阪公立大学 講堂

世話人：孝橋賢一先生

モデレーター：原 重雄先生

テーマ：腎臓（非腫瘍）

第 110 回学術集会

開催日：2025 年 9 月 日（土）【13 日、20 日、17 日】

テーマ：消化管（最新のトピックス）

胃型/幽門腺型腫瘍、superficially serrated adenoma
(SuSA) など

モデレーター：岸本光夫先生、森永友紀子先生

世話人・会場：調整中

詳しくは近畿支部ホームページをご参照ください。

-- 中国四国支部 -----

中国四国支部会報編集委員 水野 洋輔

A. 開催報告

第 146 回学術集会

日本病理学会中国四国支部 146 回学術集会在下記の内容で開催されました。

発表スライドや投票結果は <https://plaza.umin.ac.jp/csp-kouhou/>
でご覧ください。

開催日：令和 7 年 2 月 1 日（土）13:00～16:40

世話人：鳥取大学医学部附属病院病理部

桑本聡史先生

開催形式：Web 開催（‘Cisco Webex Meetings’）

特別講演

「分子病理学診断・研究の Up to date 形態解析から遺伝子解析まで」
九州大学病院病理診断科・病理部副部長／准教授 岩崎健 先生

演題番号/タイトル/出題者（所属）/出題者診断/最多投票診断

S2934/肺・縦隔腫瘍とその皮膚転移/谷口恒平（広島市立広島市民病院 病理
診断科）/

Choriocarcinoma/ Sebaceous carcinoma

S2935/胃腫瘍/床並亜有子（鳥根県立中央病院 臨床研修部）/

Glomangiomyoma/ Glomus tumor

S2936/胃癌/浅田昌紀（倉敷中央病院 病理診断科）/

Collision tumor（dMMR carcinoma and HER2-enriched carcinoma）/

Mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasms（MiNEN）

S2937/結腸腫瘍/中内光希（徳島赤十字病院 初期研修医）/

Adenocarcinoma + SSLD/ Sessile serrated lesion with dysplasia

S2938/外陰部腫瘍/石井弘司（鳥取大学附属病院 病理部）/

Myoepithelioma-like tumor of the vulvar region/ Epithelioid sarcoma

S2939/頭蓋内病変/近藤隆太郎（岡山大学病院 病理診断科）/

Meningioangiomatosis/ Meningioangiomatosis

S2940/背部皮膚腫瘍/鶴飼翔一（JR 広島病院 臨床研修部）/

Basal cell carcinoma, cystic type/ Basal cell carcinoma

S2941/右大腿皮膚病変/桑本聡史（鳥取大学附属病院 病理部）/

Poikilodermatous plaque-like hemangioma/ Hemangioma

B. 開催予定

第 147 回学術集会

日 時：令和 7 年 7 月 5 日（土）

世話人：山口大学 分子病理学講座 伊藤浩史 先生

開催形式：現地（山口大学）のみ

特別講演：病理領域別講習『未定』

参加費：1,000 円

-- 九州沖縄支部 -----

九州沖縄支部編集委員 立石 悠基

1. 活動報告

1) 第 403 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日 時：2025 年 1 月 18 日（土）13:00～17:40

場 所：アルカス SASEBO 3 階 大会議室

世話人：佐世保市総合医療センター

病理診断科 林洋子先生

参加数：87 名

第 403 回九州・沖縄スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/
出題者診断/投票最多診断

座長：力武美保子（長崎労災病院）

1 右副鼻腔腫瘍（バーチャル）/村上未樹/鹿児島大学病理学分野/40 代男性/

SMARCB1-deficient sinonasal adenocarcinoma/

SWI/SNF complex-deficient sinonasal carcinoma

2 右翼口蓋窩腫瘍/小橋川早紀/琉球大学病院病理診断科/50 代男性/

Solitary fibrous tumor/

Low-grade fibromyxoid sarcoma

3 回腸/吉井大貴/熊本赤十字病院/0 歳 1 月女性/

Allied disorders of Hirschsprung disease (Isolated hypoganglionic)

Allied disorders of Hirschsprung disease (Isolated hypoganglionic)

座長：中山正道（久留米大学）

4 下行結腸腫瘍（バーチャル）/長崎見己-松岡優毅/長崎大学医学科病理診

断科・病理部-長崎大学医学科病理診断科・病理部/80 代女性/

Elastofibromatous polyp/

Elastofibromatous polyp

- 5 肝病変 (バーチャル)/甲斐敬太/佐賀大学医学部附属病院病理部・病理診断科/60 代女性/
Vanishing bile duct syndrome, ICI-induced /
Immune-mediated adverse events (irAE)/Immune check point inhibitor (ICI)-induced liver injury
- 6 膵腫瘍 (バーチャル)/菊島百香/福岡大学医学部病理学講座/50 代男性/
PPoma/
Neuroendocrine tumor
座長: 上木 望 (長崎大学病院)
- 7 右乳腺腫瘍 (再発)/松山篤二/福岡和白病院/40 代女性/
Phyllodes tumor and Invasive ductal carcinoma/
Phyllodes tumor, malignant
- 8 乳腺腫瘍 (バーチャル)/松下能文/千鳥橋病院・病理診断科/60 代女性/
Invasive ductal carcinoma and granulomatous mastitis/
Invasive ductal carcinoma and granulomatous mastitis
- 9 右乳腺腫瘍/林透/さがら病院宮崎/70 代女性/
Epithelial-myoepithelial carcinoma with squamous differentiation/
Metaplastic carcinoma
座長: 黒濱大和 (長崎大学)
- 10 腎腫瘍/林博之・林洋子/原三信病院-佐世保市総合医療センター/50 代男性/
Leiomyoma/
Renomedullary interstitial cell tumor (Medullary fibroma, Remodelling interstitial cell tumor)
- 11 腎腫瘍 (バーチャル)/福地源司郎/九州大学/30 代男性/
Succinate dehydrogenase-deficient renal cell carcinoma/
Hemangioblastoma
- 12 子宮頸部腫瘍/岡崎菜紗/熊本大学病院 病理診断科/70 代女性/
Mesonephric carcinosarcoma/
Carcinosarcoma (Malignant mixed mullerian tumor)
座長: 添田李子 (長崎医療センター)
- 13 リンパ節 (バーチャル)/小山雄三/大分大学医学部診断病理学講座/70 代女性/
Hodgkinoid histiocytosis/
Rosai-Dorfman disease
- 14 右臀部軟部腫瘍/石飛俊介/長崎医療センター/90 代女性/
Pleomorphic liposarcoma, epithelioid variant/
Pleomorphic liposarcoma
- 15 右手掌腫瘍/田中一仁/熊本大学病院病理部/30 代男性/
Glomus tumor and neurofibroma/
Glomus tumor
座長: 松岡優毅 (長崎大学病院)
- 16 皮膚腫瘍/梅北佳子-佐藤勇一郎/宮崎大学医学部病理学講座腫瘍形態病態学-宮崎大学医学部病理学講座腫瘍形態病態学/40 代男性/
Dedifferentiated melanoma/
Malignant melanoma
- 17 脊髄腫瘍 (バーチャル)/井上知江子-望月一貴/長崎大学病院 (初期臨床研修医)-長崎大学 原研病理/6 歳女性/
Atypical teratoid/rhabdoid tumor/
Atypical teratoid/rhabdoid tumor

第 403 回九州・沖縄スライドコンファレンスと同日に学術講演が下記のように開催されました。

学術講演

川崎医科大学 病理学 教授 森谷卓也先生

「乳腺の病理 up to date」

座長: 長崎大学病院病理診断科・病理部 教授 山口倫先生

2) 第 404 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日 時: 2025 年 3 月 8 日 (土) 13: 00~16: 30

場 所: Web 開催 (Webex meetings 使用)

世話人: 済生会福岡総合病院病理診断科

主任部長 加藤誠也先生

福岡赤十字病院病理診断科

部長 西山憲一先生

福岡医療団総合病院千鳥橋病院病理診断科

部長 松下能文先生

参加数: 165 名

第 404 回九州・沖縄スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/
出題者診断/投票最多診断

座長: 木下伊寿美 (小倉記念病院病理診断科)

1 肺腫瘍(バーチャル)/廣田悠治/福岡大学病院医学部病理学講座/60 代男性/

Mucoepidermoid carcinoma, clear cell predominant/

Mucoepidermoid carcinoma

2 胆嚢腫瘍 (バーチャル)/松本昂/九州大学病院形態機能病理学/70 代男性/

Intracholecystic papillary neoplasms arising in adenomyoma/

Intracholecystic papillary neoplasm (ICPN)

座長: 米田玲子 (浜の町病院病理診断科)

3 乳腺腫瘍/古川理子/大分大学診断病理学講座-うえお乳腺外科/40 代女性/

Invasive ductal carcinoma with osteoclast-like giant cells/

Cribriform carcinoma

4 乳腺腫瘍 (生検) (バーチャル)/三原勇太郎/久留米大学医療センター病理診断科/60 代女性/

Adenoid cystic carcinoma/

Adenoid cystic carcinoma

座長: 後藤優子 (福岡徳洲会病院病理診断科)

5 乳腺腫瘍 (生検) (バーチャル)/山田恭平/久留米大学医学部病理学講座/10 代後半女性/

ALK-positive anaplastic large cell lymphoma/

Anaplastic large cell lymphoma

6 子宮腫瘍 (バーチャル)/相田常之/九州大学形態機能病理学/60 代女性/

High-grade endometrial stromal sarcoma (harboring ZC3H7B::BCOR fusion)/

Endometrial stromal sarcoma

座長: 阿部千恵 (国立病院機構福岡東医療センター病理診断科)

7 大腿部皮膚病変 (バーチャル)/加藤誠也/済生会福岡総合病院/70 代男性/
Bowen disease, Secondary localized cutaneous amyloidosis (AL, kappa & Keratin)/

Bowen disease and Amyloidosis

8 下垂体腫瘍(バーチャル)/野口紘嗣/鹿児島大学病理学分野/30代後半女性/
Pituicytoma/
Pituicytoma

第404回九州・沖縄スライドコンファレンスと同日に学術講演が下記のように開催されました。

学術講演

岡山大学大学院 病理学分野(腫瘍病理)教授 山元英崇先生

「頭頸部の“低分化・未分化”な腫瘍の病理診断

: Practical Approach and Pitfall」

座長:九州大学 構造病態病理学 教授 相島慎一先生

2. 開催予定

第405回九州・沖縄スライドコンファレンス

開催日時:2025年5月17日(土)現地開催

世話人:九州大学 形態機能病理学 教授 小田義直先生

構造病態病理学 教授 相島慎一先生

同日、スラコン世話人会・支部総会も開催されます。

第406回九州・沖縄スライドコンファレンス

開催日時:2025年7月12日(土)

Web開催(Webex meetings 使用)

世話人:琉球大学病院病理部・病理診断科

教授 和田直樹先生

教授 金城貴夫先生

教授 川上 史先生

第98回九州病理集談会も同時開催されます。

=====

病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会:池田純一郎(委員長)、杉田真太郎(北海道支部)、鈴木麻弥(東北支部)、林雄一郎(関東支部)、浦野 誠(中部支部)、竹内康英(近畿支部)、水野洋輔(中国四国支部)、立石悠基(九州沖縄支部)

=====